

市民の憩いの場となっています。またこの公園と各住区の公共公益施設を結ぶ緑道なども整備され、四季の表情豊かに演出されています。

学 遊 職

● **いわきコルム**
 タウンセンターには業務地区「いわきコルム」が、本格的な都市基盤とビジネス基盤を備えた情報都市として開発され、緑空間に隣接した美しいビジネス空間となっています。平成6年(1994)にセンタービルがオープン、インテリジェントビルとして市民サービスセンター、銀行、オフィスが活動しています。また、いわき社会保険健康管理センター、県水産会館カルチャーセンターも立地しています。

● **いわきウェルズ**
 高久地区には新しいライフスタイルや高齢化、情報化の進展に対応した、福祉や健康、文化関連の施設が集積が図られています。

● **住宅地域は「飯野」「鹿島」「高久」の3つから成り、宅地面積は平均約300㎡(90坪)の広さで、建築協定や緑化、緑地協定によってすぐれた環境と美しい街並みの形成と維持を図っています。また開放的な近隣公園、街区公園および緑道を配置して、ゆとりと出会いの空間を提供しています。**

● **幹線道路は幅員が25〜30mと広く、車道は歩道や住宅地から一段低くした掘割形式を採用し、車の円滑な通行と人の安全性を確保しています。住宅地における区画道路は通過車輛を排除する設計で、こどもや高齢者にとって安全で安心です。**

● **いわきニュータウン中央のタウンセンターには大型ショッピングセンター、郵便局、派出所、消防署が整備されています。各住区にはサブセンターが配置され、スーパーやコンビニなど身近かで便利な店舗があり、医院やレストランも立地しています。鹿島地区には内科、小児科、耳鼻咽喉科、歯科、薬局などの「医者村」がオープンしました。**

● **路線バスも、JRいわき駅や小名浜、鹿島ショッピングセンターを結び、またフリー乗降システムを採用した循環バスも運行され、ネットワークが形成されています。**

● **いわきニュータウンの総面積の1/3が公園緑地ですが、なかでも県立いわき公園は広さ70ha、森や雑木林などの自然の地形をそのまま生かした広場や「石の舞台」など、**

住・遊・職・学が融合した街

いわきニュータウンのこれから

これまで30年近い事業の中で、いわきニュータウンは一貫して「良好な住環境の創造と提案」を行ってきた。

特に、平成年代の「テーマを持った街づくり」はそれを具現化したものであり、それぞれの時代のニーズを踏まえて街づくりを行ってきた。

ビーターパンの庭と街区住民が共有する駐車場等による「フォレストタウン」、新和風・屋敷町をコンセプトとし、幽玄の世界を醸し出す「木のまち」などがその代表例で、いわき市及びその周辺に対して「良好な住環境のモデル」として発信し続けてきた。

また、環境共生都市を標榜するいわき市にあって、「環境」をキーワードとする整備が行われた。緑のネットワークや散策路の整備、排水性舗装あるいは次世代都市整備事業として実施された太陽光発電集中連系システムの構築などで、今では、良好な街並みとあいまって、「グレードの高い街・いわきニュータウン」のイメージが定着している。

しかし、厳しい社会環境の変化は当ニュータウンにあっても例外ではない。事業開始当初の「新市街地」もいまや人口13,000人の小規模自治体並みに育ち、事業の軸足も、事業採算性や効率性を重視しつつ、ハード整備からコミュニティ形成等ソフト面でのシステムづくりへ移りつつある。また、住宅地供給と並行して、いわき市全体への波及も視野に入れた福祉・商業施設等、広義の利便施設の整備も喫緊の課題である。事業の後半期を迎え、当ニュータウン事業に課せられた期待はまだ大きいものがあり、事業完遂に向けさらに努力していきたい。



太陽光発電システム(中央台南中学校法面)



独立行政法人都市再生機構
 いわき都市開発事務所
 総務分課 課長

加藤 光弘

「いわきコルム」と「ラパークいわき」

タウンセンター北側の「いわきコルム」は、本格的な都市基盤、ビジネス基盤が整備され、情報都市を形成しています。また商業施設が集積した「ラパークいわき」はいつも買い物客で賑わうショッピングゾーンです。



充実した教育環境

それぞれの地区には保育園、幼稚園、小・中学校が配置され、またニュータウン内に県立高校、四年制大学まで整っていて、子育てにも安心の教育環境となっています。



緑と水がひろがる公園・緑地
 広大な緑と水の果たいわき公園をはじめ、各地区には近隣公園や街区公園があって、こどもたちやお母さんがたに毎日のように親しまれています。

美しい景観の住宅地

建築協定によって建築物の位置や形態、意匠などの基準を定め、また緑地協定によって植樹の義務や生け垣設置をすすめています。
 平成9年度 鹿島地区は全国都市景観100選建設大臣賞受賞



民間住宅事業者と連携したモデル街区「サザンクロスプロムナード」は、平成6年度「第12回まちづくり月間建設大臣賞」を受賞しました。

環境共生への取り組み

いわき市は平成5年度に環境共生都市(エコシティ)の指定を受け、その重点地区としていわきニュータウンが位置づけられています。「環境共生住宅市街地モデル事業」は区画道路での排水性舗装により生態系の維持を図り、高久地区のひわたしガーデン(貸農園)では、雨水貯留システムの整備や生ゴミコンポストを設置しています。



「中央台鹿島木のまち」は、和風木造住宅で構成され、エコシティ整備事業として木のぬくもりを感じる街となり、平成11年度福島県建築文化賞(特別部門賞)を受賞しました。

